

矢作川流域懇談会 山部会 山村ミーティングの経過と進捗状況（未定稿 2017/5/19）

文責：丹羽健司

●経過

- ①流域の森林整備を担っている森林組合作業班員が寄り合う機会（山村ミーティング）を作ることで、林業現場で働く者（その多くはアイターン）が感じる山村と林業の課題を明らかにして課題解決の方策を探ることを目指して寄り合いを呼びかけて開催した。
- ②しかし集まりは悪く、開催継続は困難となった。理由は、開催時間、呼びかけ方、議題等多種。
- ③堅い話では困難との判断から、北海道中川町の「きこり祭り」の矢作川版を提案。
- ④足助の林業者のお祭り「もみじ祭り」の開催も終了が決まり寂しくなる。9月開催の「矢作川感謝祭」での共催を呼びかけるが2016年9月は種々の事情で川だけの単独開催に。
- ⑤森林組合幹部の危機感が変化してきている。以前なら作業班員ヒヤリング協力を依頼したら拒否されていたと思われるが、認識が近づいた感。流域ヒヤリングGo！
- ⑥「矢作川感謝祭」、もろもろの事情を乗り越えて毎年秋の恒例行事化に向けて、11月から実行委員会を開き一緒に進めていくことに。
- ⑦愛知県林務課に協力要請、国土緑化推進機構に助成申請中（矢作川森健康実行委員会）。

●今後の企画

- ★「矢作川感謝祭（仮称）」2017年開催にむけて実行委員会に加わる。→9月2日に決定
→流域の林業プロも素人山主も森ボラも一緒に「山の恵み」を感謝し、「山仕事」を誇れるお祭りにする。
 - ★「矢作川流域林業担い手ヒヤリング（仮称）」の実施
 - *現状認識：流域の森林整備はほぼ100%森林組合作業班が担っている。その若手現場作業員の多くは他産業からの志高い転職・アイターン者である。その新人教育と定着は大きな課題であるが、いまその中堅技術者たちの離脱が深刻な課題となっている。
 - ①エリア：矢作川流域
 - ②時期：2017年6月～
 - ③対象：根羽村、恵南、豊田、岡崎森林組合作業班員・林業事業体社員
(就業4年以上55歳未満未満) + 他産業離脱者追っかけ調査で合計100人
 - ④方法：4組合等に協力依頼→対組合・事業体ヒヤリング→母集団整備→リスト（たぶん悉皆）→個人アポとり→面接個別ヒヤリング（基本項目は平成10年度調査に準じる。10分間の問わず語り）→ひたすらヒヤリング
→集計・とりまとめ→報告交流会（「山村ミーティング」）
 - ⑤調査者：丹羽健司ほか
 - ⑥テーマ：かつては「新人定着」が、今は「中堅離脱」（他産業離脱）が深刻な課題。
巨大製材所、大規模森林組合、零細事業体、山主の山離れ、素人山主の共存
- 資料：平成10年愛知県林業振興基金調査